

第4回 菊陽町協働の仕組みづくり検討委員会会議録（要旨）

- 1 日時 平成21年11月13日（金） 午後2時00分～午後4時00分
- 2 場所 菊陽町役場 2階 庁議室
- 3 委員会概要
 - (1) 開会
 - (2) 委員長あいさつ
 - (3) 議事 課題解決策の検討
 - (4) 事務連絡
 - (5) 閉会
- 4 議事要旨

事務局から課題解決策について説明（資料）

○「住民ワークショップ」「コミュニティ検討委員会」「職員プロジェクト」で提言された課題解決策について（P3～P5）

・住民ワークショップでは、「理想のまち」に近づけるため、「情報の共有」「交流の場づくり」「参加・参画の推進」を提言している。

・コミュニティ検討委員会では、地域コミュニティ協議会の設立や、地域コミュニティの活性化の為に、情報共有や人材の発掘・育成、地域活動の活性化・支援、地域資源の活用などを提言している。

・職員プロジェクトでは、情報の共有を実現させることが協働の仕組みをつくる基礎であり、情報を共有する「場」や「場」を提供すること、またそれを維持する仕組みが必要であると提言している。

・提言されていること、本委員会で検討されていることのキーワードをとりまとめている。
（P6）

・これまで検討してきた課題を一挙に解決できるような条例を作ることはできない。課題解決の第一歩となる情報の共有を実現させる具体的な制度を検討する。今回は、全国で条例化されている制度の中から代表的なものを説明する。全ての制度を条例化するという意味ではない。条例になじむもの、なじまないものもあると思う。

○「パブリックコメント手続」について説明（P7・P8）

【主な意見等】

- ・いろんなところから意見を出してもらえることがメリットだと思うが、他にメリット、または、デメリットは。
- ・メリットとしては、意見がでない場合でも、町が行う事業などの情報提供、情報共有の手段となることである。デメリットとしては、提出した意見が採用されないことで、行政に対する不満、不信を招く恐れがある。採用できない場合はその理由を公表する必要がある。
- ・パブリック・コメント手続は新規事業などに対して意見を募集することだと思うが、取組中の事業などに対しても意見を言いたいものがあるのではないか。どのようなレベルのものを考えているのか。
- ・基本的に新規の施策や事業である。取組中のものについては別途考える必要がある。
- ・広報で「協働の仕組みづくり」について意見を募集しているが、どのくらい出ているか。
- ・今のところ全く出していない。
- ・委員は内容を知っているが、始めて見た方は何を言っているかわからない。具体的にわかりやすい言葉で書いた方がいいのでは。いろんな意見がでるだろうが。
- ・法律（行政手続法）では国がルール（政令、省令など）を作るときにパブリック・コメント手続が必要であると定めている。自治体が行っているパブリック・コメント手続には、ルールだけでなく新たな計画や条例などを対象にしている場合も多い。また、終わった事業などの成果に対してパブリック・コメント手続で意見を求め、翌年以降の税金の使い方に活かす方法もある。
- ・パブリック・コメント手続で意見を求めても、実際あまり意見がでない。いかに多くの人に知ってもらうかということが大きなポイントになっており、多くの自治体で課題となっている。

○「審議会」について説明（P9・P10）

【主な意見等】

なし

○「ワークショップ」について説明（P11）

【主な意見等】

・ワークショップを設置してもそれを知らない人が多い。たくさんの人が参加できるようにするにはどうしたらよいか。

・平成19年に行った住民ワークショップは広報、ホームページなどで募集したが、参加人数はあまり多くはなかった。

・自治会などへ情報を流したりできないか。ホームページはパソコンを持っていない人や見ていない人もいる。また、ワークショップという言葉の意味がわからない人もいないか。

・ワークショップは絶えず設置されており、いつでも参加できるのか。又、誰が設置するのか。

・議論していただきたい課題があるときに町が設置する。また、住民からの要望で設置するということも考えられる。

・南部町民センター建設時、町の呼びかけで、区長や公民館長、婦人会、老人会などの関係者を集め、グループに分かれてワークショップを行い今のセンターができた。町民の意見がある程度反映されており、一応満足して使っているという感じである。そういう意味では非常に有効である。全員100%満足することは無理だが、そういう事例もある。

・ワークショップは必ずしも行政が関わるものだけではなく、技法の名前である。グループで作業し、一緒に何かを考えることがワークショップなので、言葉の定義をしっかりとっておかないと無用の混乱をまねく。

・ワークショップを常設し、いつでも参加してもらえるようにしてはどうか。

・ワークショップは思いもかけないようないろんな意見がでるので非常に参考になる。

○「意向調査」について説明（P12）

【主な意見等】

- ・ 現在どのくらいの頻度で行っているのか。
- ・ 総合計画（前期・後期）策定にあたり行っている関係から5年に一回。
- ・ もっと簡単な意向調査を毎年行ってはどうか。簡単に、1ページくらいで答えられるくらいの量でいいのでは。毎年行ってもそんなに労力はかからず、リアルタイムで町民の意見を吸い寄せられる。
- ・ 調査結果を地域ごとに分ける必要はあるか。
- ・ 地域で住民の意識はかなり違う。地域性はかなりある。
- ・ どこまで求めるかが問題。多くのことを狙おうとすると、膨大な量になってしまい本当の目的が決まらない。
- ・ 毎年行った方が慣れて、行政を身近に感じるかもしれないし、その方が参画しているという気持ちになるかもしれない。

○「公聴会」について説明（P13・P14）

【主な意見等】

なし

○「説明会」について説明（P15）

【主な意見等】

- ・ 説明会の議事録などを公表をしているか。
- ・ 議事録などの公表はほとんどしていない。

- ・説明会で出された意見を公表すると住民の関心が高まるのでは。
- ・説明会はどのくらいあっているのか。
- ・基本的に工事関係が多いので、自分の地域に関することに関心をもつのでは。
- ・他の地域からするとあまり関係ないという気持ち、考え方もある。
- ・自分の地域以外のことでも重要な事業であれば全住民が知る必要がある。

○「政策提案手続」について説明（P16・P17）

【主な意見等】

- ・〇〇人以上でとあるが、個人では提案できないのか。
- ・10人以上だったり500人以上など市町村によってさまざま。個人でも提案できると規定されているところもあるかもしれない。

○「住民投票」について説明（P18・P19）

【主な意見等】

- ・常時、住民投票の根拠となるような条例を定めているところもあるので、必ずしも今回の説明のタイプだけではない。住民投票を条例の中にどう位置づけていくかを議論する必要がある。
- ・住民投票の結果、長の政策が否決されたとしても法的拘束力はないことが通説であると理解しているが。
- ・法的拘束力はないというより、法的拘束力があるような住民投票はできない。「責任の所在がはっきりしない」「議会との関係」などいろいろな理由はある。

【全体の主な意見等】

- ・条例は、具体的に一人一人の住民が、この条例を使って何ができるかということに着目

して書かなくてははいけない。

- ・〇〇人以上で提案するという制度があれば、多く提出された意見が考慮されるとは限らないという制度もある。このあたりをどうするか考える必要がある。

- ・説明があった制度は住民参加の定番メニューであり、説明会とか公聴会など都市計画手続などで法律や他の条令で義務づけられている場合もある。条例に全て盛り込むわけではなく、ワークショップなどは条例になじみにくいのではないか。このあたりの整理の話をこれから議論する必要がある。

- ・ワークショップは、なかなか意見が言えない住民が参加して、理解を深めていくことができるとてもいい手法である。条例に盛り込まれなかったとしても、ワークショップは大切にしたい。

○条例のフレームについて説明（P20）

- ・これまで検討してきたキーワードが条例の骨組みになると考えられる。例えば①であれば、「住民と行政が協働でまちづくりを行うために、情報共有や住民参加を推進します」と理念的なことを盛り込む条例になる。②になると、住民参加の具体的な手法まで含めた条例になる。交流の場づくり（コミュニティ）については、町がコミュニティを支援しなければならないことや具体的な支援策などを規定することが考えられる。

- ・条例によって、逆に行政がしばられるというデメリットもある。条例を作れば町が理想的な姿になるとは限らないのではないか。条例は手段であって、それが目的になってしまうといけない。一番大事なのは、町のビジョンがあって、それを実現させるためにどう住民に参加してもらえればよいかを頭に入れて条例をつくらなければいけない。

- ・課題を解決するために条例が必要である。必要なものから条例を作るという感覚で良いのではないか。条例を活用するにも、理解するにも時間がかかる。

- ・できるだけ多くの住民の意見が出るようにした方がいいことはあきらかである。条例検討と同時に、住民が地域にもっと関心をもつことや人づくりなど、そういうこともやっていく必要がある。

- ・長期展望と短期展望とを考えないといけない。今できないからといって次に残さないわけにはいかない。人づくりは一年や二年ではできないから10年先を目指してどうするか。